



●事業名： **西栗倉宿泊施設整備方針**



(0) はじめに	3
(1) 事業方針	5
(2) 西栗倉村の地域資源	13
(3) 対象とする顧客	17
(4) 投資規模算定根拠	20
(5) 今後のスケジュール	21



西栗倉村の経済の「非効率性」の中にこそ、「最先端の未来」がある。
このような西栗倉村の「非効率性」を「付加価値」と捉え、「観光」の切り口から
村全体として収益を生み出す仕組みをつくりだす。

西栗倉村に残る「非効率性」や「時間軸」を 宿泊施設も含め「体験」という価値へ

「非効率性」が残る経済圏では、都会では体験できない手間ひまをかけた
1 つずつ違うものづくりや独自の文化が残っている。
また、西栗倉村の主力産業である林業では「時間軸」として60年もの長
期スパンで物事を考える必要がある。

他方、現在社会では、都会で働く多くの人々は日々時間に追われ、「暮らし
のあり方」に疑問を抱きながらも、「非効率性」の残る経済圏でのリアルな
暮らし体験や価値観を得ることができる場所がまだ少ないこともあり、暮らし
方を再考する機会がないことが多い。
また、日々時間に追われていると長期の視点で物事や人生をゆっくり考える
時間もないのが現状である。

近年では全国各地で「田舎暮らし体験」や「民泊」なども増えてはいるが、
多くの地域ではまだ「点」としての取組であり地域全体の「面」としての価値
観を提供できていないのが現状であろう。

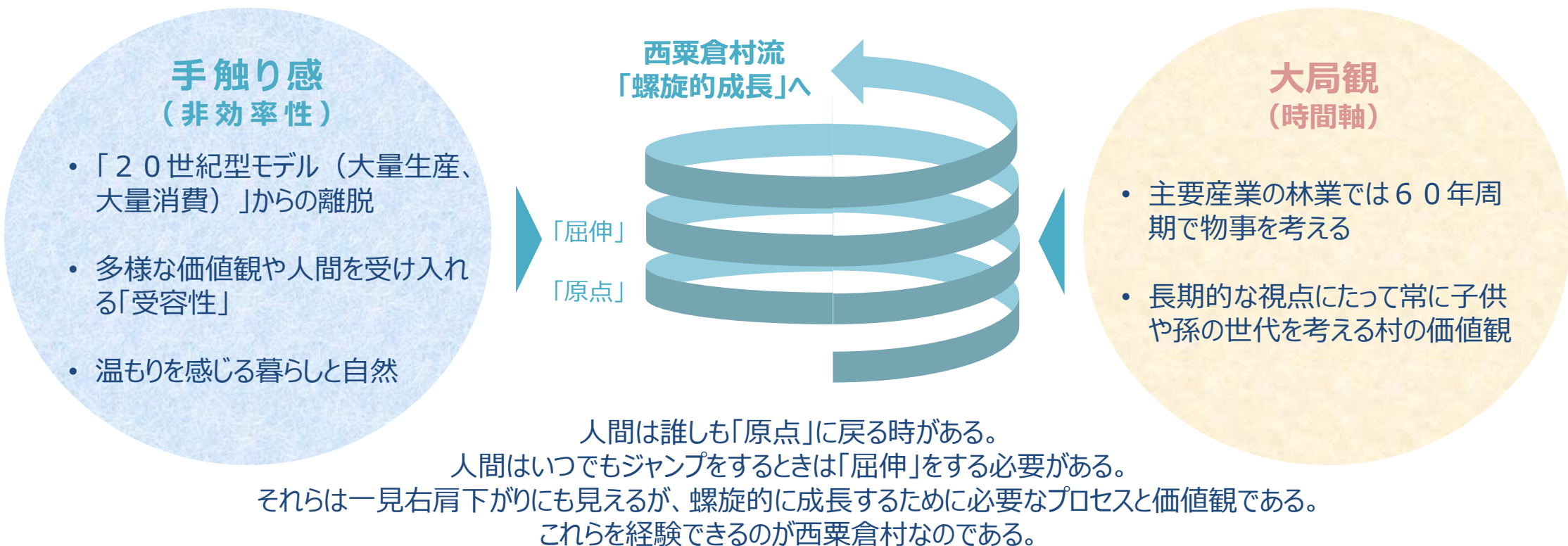
西栗倉村では、川の流れや森の空間そしてこれまで育んできた歴史文化
や人という素晴らしい地域資源をいかして、非効率性の残る暮らし方やま
るで木を植えるように数十年先の未来を思い浮かべながら今を生きる大切
さを学ぶことができる。

まさに「未来の自分と向き合う」地域である。



螺旋的成長を遂げる西栗倉村

- 「一極集中」から「多様性」社会の移り変わり始めている。西栗倉村は合併をせず長期的な視点に立って独自の哲学で独自のまちづくりを進めてきた。多様な人間を受け入れ、地域を解放したことで様々な人たちの人口が伸びた村でもある。一時的にハレーションはあってもそれは成長するための準備であり、時間が経つと良いイノベーションが出来始める。西栗倉村はこの「受容性」があるから多くの人々が来る地域になった。
- 「百年の森林構想」は「器」であり、その中では「これをやるべき」という内容は決めず、地域の人々が器の中で自由に動いている。考え方だけを伝承し、具体的なことはその時代にあったことを人々が自由に考え実行しているのである。



百年の森を実現するための上質な田舎
～人間の原点回帰の旅へ～

①事業展開方針

あわくら荘を「上質な田舎」のハブ機能として改装を行う



テーマ 【「上質な田舎」の情報や人が集まるハブ機能として、訪れると村全体が見えてくる宿泊施設】

テーマ 【「上質な田舎」の情報や人が集まるハブ機能として、訪れると村全体が見えてくる宿泊施設】

～西栗倉村のコンセプトである【生きるを楽しむ西栗倉村】を実現する～

西栗倉村の「上質な田舎」・
100年の森構想を支える構成要素



手触り感
(非効率性)



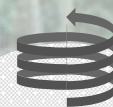
大局観
(長期の時間軸)



先進性
(柔軟性)



受容性と多様性
(新規事業の創造
と交流拠点の形
成)



螺旋的成長
(規模の成長では
なく質の成長)



森林との共生



西栗倉村の「上質な田舎」・百年の森林構想を支える要素①



手触り感
(非効率性)

- 「20世紀型モデル（大量生産、大量消費）」からの離脱、手間隙をかけたものづくり、ことづくり
- 人間の関係性・距離感が近い
- 「温もり」、「手作り」、「手触り」を感じる暮らしと自然
- 地域にある資源を活用した「生業」を重視している（「やりがい」でも「産業」でもない）



西栗倉村の「上質な田舎」・百年の森林構想を支える要素②



大局観 (長期の時間軸)

- 主要産業の林業では60年周期で物事を考える（実務的には10年スパンで物事を捉え戦術として社会の変化に合わせて柔軟に対応していくが上位概念として「60年」という長期スパンを忘れない）
- 長期的な視点にたって常に子供や孫の世代を考える村の価値観



西栗倉村の「上質な田舎」・百年の森林構想を支える要素③



先進性 (柔軟性)

- 非効率性、大局観は残しながらも時代に応じて柔軟に先進性を取り入れている。「田舎だからしょうがない」という言葉は西栗倉村にはない
- デジタルやテクノロジーを吸収しつつも良いものは残し、地域を「守り続ける」ための手段として受け入れている



西栗倉村の「上質な田舎」・百年の森林構想を支える要素④

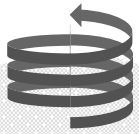


**受容性と多様性
(新規事業の創造と
交流拠点の形成)**

- 多様な人間を受け入れ、地域を解放している。新しい外の人を受け入れるということは、その人のネットワーク自体も受け入れていることとなる。これにより、住んでいる人と違う地域の魅力を見ている人たちが増え、これまで地域になかった事業ができるようになってきた。異なる価値観で見るからこそ異なるビジネスが生まれてきたのだ。
- このように多様な人が集まることにより地域外の視点と地元の視点が融合して1つの集合体として西栗倉村らしさが形成されていった。この集合体が観光交流地、関係人口拠点に繋がっている
- このように、西栗倉村は最終的には村の成長のために受容性と多様性を持つことにしているのである。



西栗倉村の「上質な田舎」・百年の森林構想を支える要素⑤



螺旋的成長 (規模の成長では なく質の成長)

- XY軸で物事を見ず、一見右肩下がりにも見えることであっても、「原点」を忘れずに、一時的にハレーションはあってもそれは成長するための準備と捉え、イノベーションを創出してきたというまさに「螺旋的成長」を遂げている
- 西栗倉村の企業も人も「大きくなる」のではなく「強くなる」ことを目指し、「失敗させてあげることも大事」という考えのもと、痛い思いしながら成長している。
- ものに新しく「積み重ねていく」という考え方で信頼と信用を得ている。



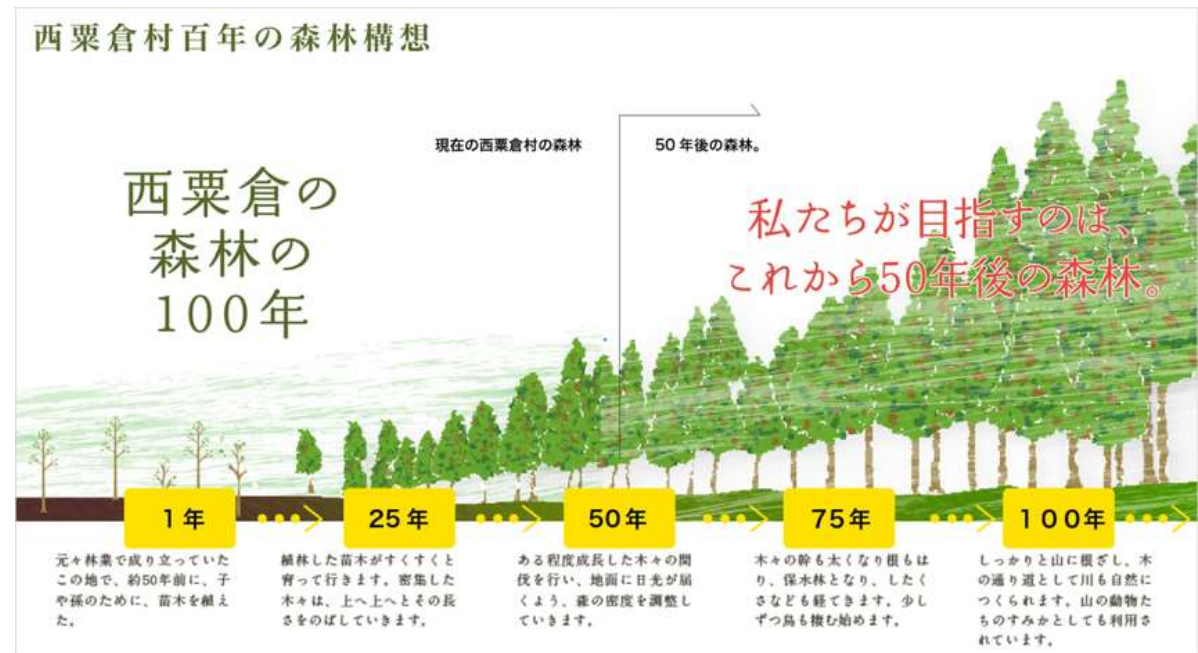
西栗倉村の「上質な田舎」・百年の森林構想を支える要素⑥



森林との共生



- 世代を超えて守り続けている森林資源・地域資源
- 先人たちが1本1本手で植えた森林を適切に管理し、未来へむけて想いを共有する森林づくりと暮らしの共生
- 先人たちの「文化」「歴史」も大切に、昔からのものに新しく「積み重ねていく」という考え方で信頼と信用を得ている。



1

歴史

【江戸時代には幕府の直轄地・天領として栄え、林業も発展した。参勤交代のルートとして茶店があった。】

昭和46年には国民宿舎ができ温泉で盛り上がるものの平成6年には衰退。同時にヤマメやニジマスの養殖を開始するが衰退して廃業。平成元年にはドライブインができたものの平成10年から衰退。平成11年にできた旬の里も衰退の一途をたどっている。砂鉄の産地としても有名。



2

自然

【四季折々の環境に恵まれ、季節ごとの景色・食を堪能できる。】

昔は山、田んぼ、川などで遊んでいた。田んぼで凧揚げやワラ遊び。川では泳いだり飛び込んだり魚を取ったり岩場で滑り台をしたり、と自然の中で子供たちが遊んでいた。7月中旬には一面のホタルが観ることができる。

各季節の特徴は、春…山菜、タケノコ 夏…朝と夜は過ごしやすい、水が冷たく涼しい 秋…キノコ、山芋（自然薯） 冬…雪（家の前でかまくら、雪合戦など）



3

食文化・サービス

【山陰と山陽の交通拠点として、交錯する食文化】

1匹丸ごとさばを使ったさば寿司。山奥のため柿の皮で包む押し寿司系が発達。カニが好きて、岩牡蠣も食べる。

フレル（廃校になった小学校の飲食店）などで、ジビエ（鹿、猪、狸、ウサギ、熊）を食べることができる。



4

技術

【林業を背景に、高い木工技術を持った職人が多い。】

山から木を切り倒し、製材、そして最終商品にするまでを村内の作業所・職人で加工する技術がある。（特に、ヒノキの家具をつくる技術が高い）

村外・県外からも、地域おこし、木工に関心の高い人材を集める力がある。



5

人・その他（施設）

【地域に魅せられたキーパーソンが多く住んでいる、関わっている】

地域おこし協力隊29名、Iターン率10%（合計150名）、若手の林業者（木こりでリーゼント）、牧さん（うなぎ、人の調達、村のブレイン、学校の管理、製材加工、いちご施設）、大島さん（ヒノキの家具、信州大学の助教授）、井筒さん（木質バイオマスコンサルタント、熱エネルギー供給、ゲストハウス、酒屋、帽子屋（香川））、田中よしみさん（農業、加工、女性、人好き）、浅野朝美さん（寿司、漬物）、JFとの関係は良好、グリーンリゾート、木の里工房・木薫、森の学校、道の駅、mori-no-oto（木の楽器）、皮製品、もとゆ、天徳寺（レストラン）、黄金泉、軒下図書館、トイレ、バンビエリア、新たな図書館、フリースペース、コワーキング、ローカル研究所、若杉窯（焼き物）、染め物（天然素材）、木工クラフト、精油女子、カトラリー（高級列車瑞穂にカトラリー卸してる）、カラクリ時計作っているおじさん（関野意匠堂）



宿泊施設 ▶ これらの資源を体感・表現できる施設・空間が重要（性能・拠点）
域内における、地域資源のつなぎ合わせによる観光サービスの創造を実現する。

(2)西栗倉の地域資源

15

宿泊施設 ▶ これらの資源を体感・表現できる施設・空間が重要(性能・拠点)
域内における、地域資源のつなぎ合わせによる観光サービスの創造を実現する。

1

歴史



2

自然



3

食文化・サービス



西栗倉村
コネクトリーインダストリー

4

技術



5

人・その他（施設）



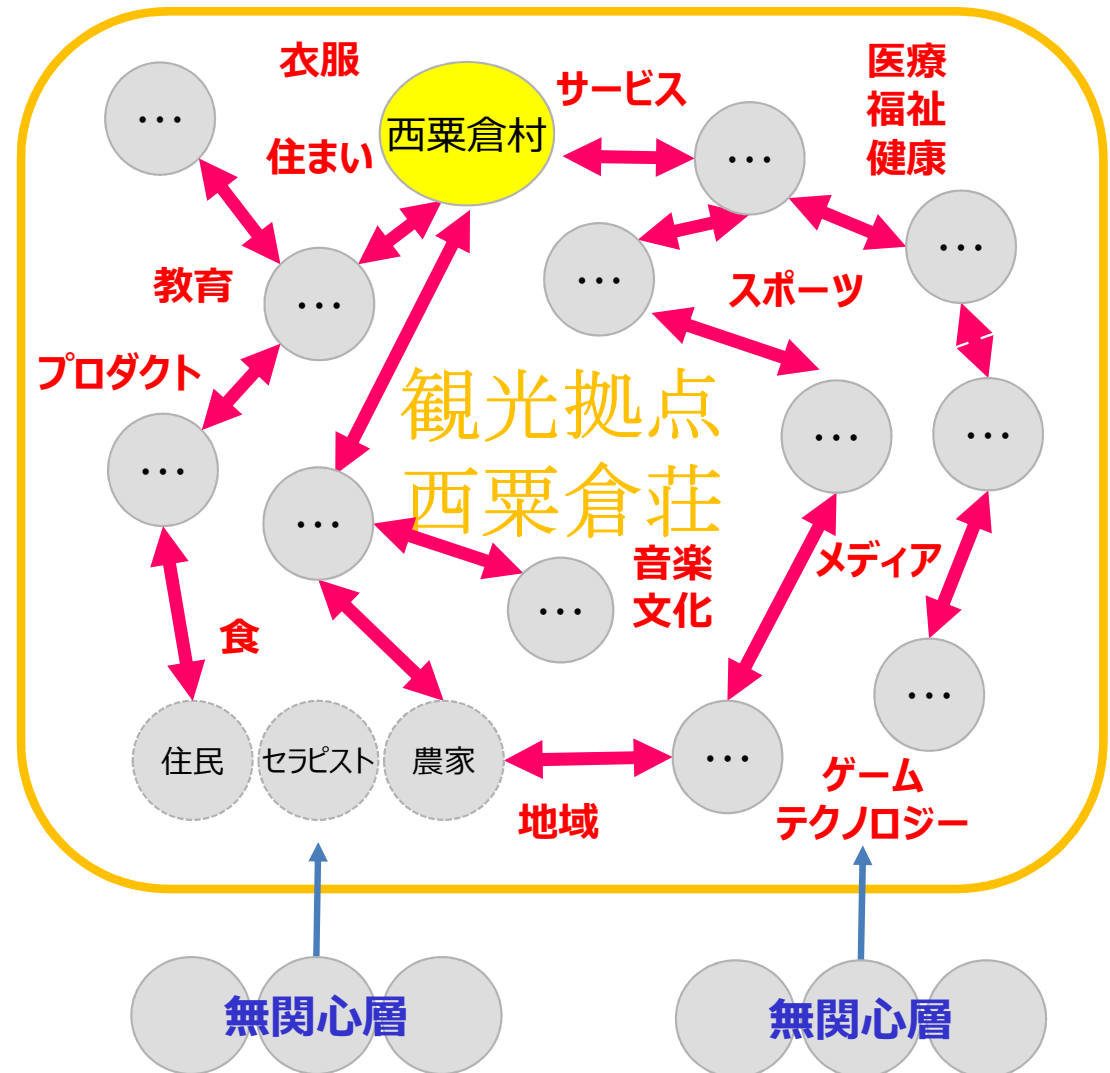
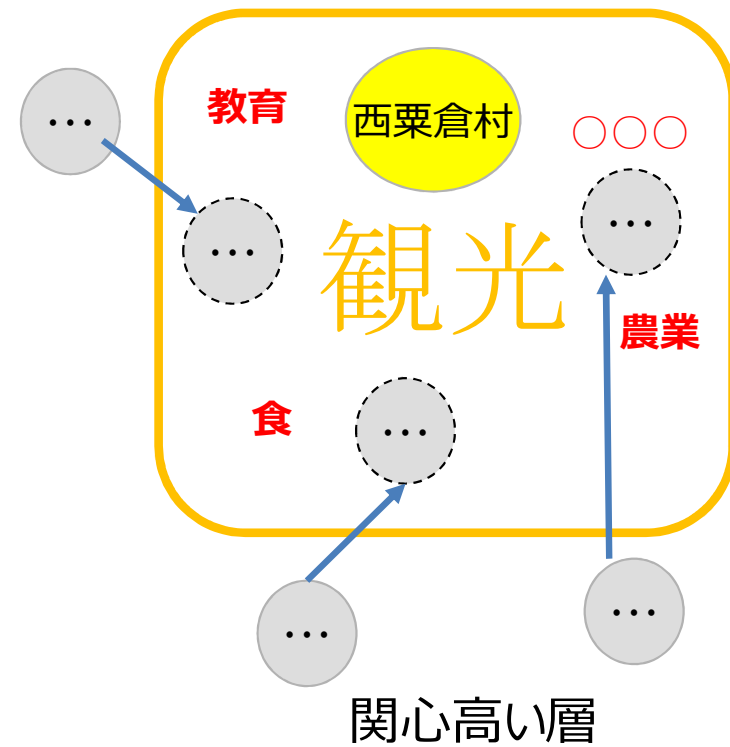
(2)西栗倉の地域資源

16

西栗倉村
コネクトリーインダストリー

西栗倉村2.0

西栗倉村1.0



① ゆったりとした上質な空間に惹かれるお金にも心にも多少のゆとりのあるミドルアッパー層

【家族パターン】

2泊3日で子どもと一緒に様々な体験を



- 都会での共働きでお金にはゆとりがあり、あまり値段を気にせず買い物をしたり遊びに行ったりする。普段の休日は都会にあるテーマパークや最先端の遊び場などに家族でよく出かける。**リテラシーがあるため、値段ではなく「良質なもの」や「本物」に反応する。**子供の教育はいわゆる「塾」や「受験戦争」ではなく、幸せに生きていけるよう自分で「考える」ことができるよう願っている。
- 連休はせつかなので都会での日常の休日では味わえない「本物」の自然がある地方に旅行に行きたいと思っているが、「ダサい」場所は嫌なため、**田舎だけど上質な「異日常」の場所を求めている。**
- 何度もリピートする可能性も。

【1人パターン】

1泊2日で素敵なものと人との出会いを



- 30代の未婚女性。これまで都会でバリバリ仕事をしていて、貯金は1,000万円～2,000万円は貯まっていたがワークが軽い。「ストーリーのある」素敵なものが好きで、単に「可愛い」「綺麗」という表面上のものではなく、**「可愛くて綺麗で、かつ、背景に地域のストーリーや学びがある」ワンランク上の物やサービスを求めている。**
- 「計画」よりも「偶然」の出会いが好きで、「異日常」の中での素敵な出会いや経験がしたい。

② エシカルかつソーシャル系の若手経営者

- 自分で事業を立ち上げ、がむしゃらに走り抜けてきた創業期を経て、成長期または変革期に突入している。これからは一步先の思考が求められており、自社の「哲学」「事業」「オペレーション」などを今一度日常からかけ離れた「自分に異なる文化圏」で捉え直したいと思っている。宿泊施設には「**ゆっくり考えられる空間**」と「**頭の良い仕掛け**」を垣間見たいというニーズがある。**食事は役場職員や牧さんと一緒にしたい**と思っているタイプ。栗倉荘などでの出会いから新たなコラボの可能性も。



③ 関西圏在住のアクティブシニア

- 関西圏に住んでおり、時間とお金にゆとりのある60代後半～70代の男性。
- 若い頃は仕事に打ち込み、仕事をすることで存在意義を感じていたため私生活でのコミュニティづくりや人付き合いは重視しないで生きてきた。しかし、**退職してからは居場所がなく寂しい日々**を過ごしている。
- 特に奥さんが友達と旅行に行く時には自炊ができないため食べるものにも困り、コンビニ弁当を毎日食べている。
- 御朱印は関心がないけど御朱印コミュニティみたい月に1回「**男の遊び場**」として「**ここにすれば気の合う友達に出会える**」という場所が欲しい。



(3)対象とする顧客

19

① ゆったりとした上質な空間に惹かれるお金にも心にも多少のゆとりのあるミドルアッパー層

② エシカルかつソーシャル系の若手経営者

③ 関西圏在住のアクティブシニア

より多くのターゲットに情報を届けるためには、岡山県内（岡山市など）より
神戸市・大阪市などの都市圏に住む、経済的にゆとりのある富裕層などに向けた広告を打つ



西栗倉らしい、地域の資源をふんだんに生かし、
顧客のニーズに合わせた過ごし方ができる【上質な田舎】の新たな拠点へ

